

私の天鐘 入賞作品紹介

「私の天鐘」 入賞作品決定

デーリー東北新聞社がこの夏に募集した第2回「コラムに挑戦」私の天鐘の入賞作品が決まった。

「私の天鐘」は、読者の方々に、日々の暮らしの中で感じていた思いや希望、地域への提言などを、本紙の1面コラム「天鐘」と同じ形で自由につづってもらったもの。

8月末の締め切りまでに一般の部(大学生を含む)に13点、中学生の部に28点が寄せられた。小学生の部への応募はなかった。

八戸学院短期大ライフデザイン学科長の茂木典子氏と、本紙「天鐘」担当者の計4人でこのほごテーマや論旨、表現などを審査、入賞作品を決定した。

表彰式は19日午前10時から、デーリー東北ホールで行う。各部門の入賞者と、それぞれの最優秀賞に輝いた作品を紹介する。



応募作品の論旨や表現などについて意見を交わし、入賞作品を選考した審査会。8日、デーリー東北新聞社

読者の方々から寄せられた、「一つの「天鐘」を興味深く読ませていただいた。普段は書く方の立場なのだが、読む側に回って、世の中の動きや私たちの地域を見つめる新しい視点や考え方にも気付かされたような気がする。

「私の天鐘」は今年で2回目。本紙の創刊70周年を記念した昨年の1回目は戦後70年だったこともあり、戦争や平和をテーマにした作品が多かった。

総評

今年には実にバラエティーに富み、楽しみながら一編一編に目を運ぶことができた。

例えば、一般の部の最優秀作品のテーマは来日から50年のビートルズだった。政治や社会の硬い話題に偏りがちなテーマの中で、音楽を取り上げた作品は新鮮な印象を受けた。論旨も明確で、コラムとしての完成度も高かった。

そのほかにも、一般からの応募では、地域の歴史や文化、身近な暮らしに

感じたこと、書いてみよう

目を向けた、キラリと光る力作が幾つもあった。読み応えのある作品が増えたのも、今回の大きな特徴と言える。

高校生以下が今年も少なく、中でも小学生の応募がなかったのは残念だった。その中で、夏休み中にあったりオデッセイイロ五輪を多くが取り上げたのは、若い人たちの関心の表れだろう。スポーツの感動や平和の大切さをつづった素直な筆致に好感が持てた。

コラムとは、端的に言えば短い論評のこと。限られた文字数の中で物事を論ずるといっては、簡単ではない。ともすれば「内容が単なる作文」や「意見発表」にとどまってしまうが、

ただ、堅苦しく考える必要もない。基本的に書くことにはややこしいルールはないからだ。季節の移り変わりや日常の小さな出来事に関心を寄せ、感じたこと、考えたことをまず書いてみてはどうだろうか。そんな小さなことからコラムの第一歩が始まるかもしれない。今後も大いに挑戦してほしい。



「私の天鐘」に寄せられた応募作品の数々